

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2018-175484

(P2018-175484A)

(43) 公開日 平成30年11月15日(2018.11.15)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 4 7 F 5/00 (2006.01)	A 4 7 F 5/00	G 3 B 1 1 8
A 4 7 B 57/58 (2006.01)	A 4 7 B 57/58	D
A 4 7 B 65/00 (2006.01)	A 4 7 B 65/00	6 O 2 B

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願2017-80499 (P2017-80499)	(71) 出願人	000175560
(22) 出願日	平成29年4月14日 (2017. 4. 14)		
		(74) 代理人	100090206
			弁理士 宮田 信道
		(72) 発明者	堂谷内 昭博
			富山県高岡市早川 7 O 番地 三協立山株式
			会社内
		F ターム (参考)	3B118 FA32

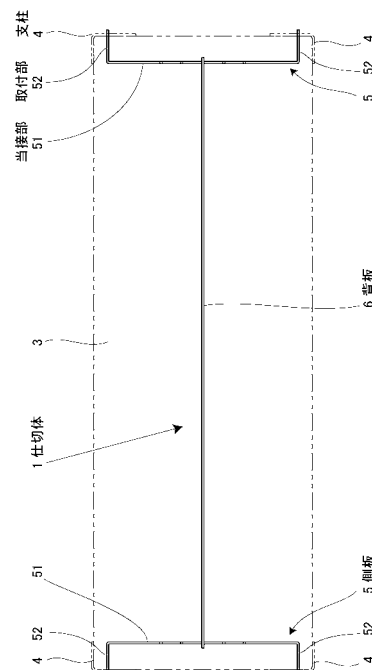
(54) 【発明の名称】 仕切体及び棚

(57) 【要約】

【課題】 書籍等の被載置物を見栄えよく陳列することのできる仕切体及び棚を提供する。

【解決手段】 二つの側板と、背板とを備え、側板は、被載置物に当接する当接部と、棚の支柱に取り付けるための取付部を有し、背板は、左右に配置した側板間に架設してある。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

二つの側板と、背板とを備え、側板は、被載置物に当接する当接部と、棚の支柱に取り付けるための取付部を有し、背板は、左右に配置した側板間に架設してあることを特徴とする仕切体。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の仕切体を備えることを特徴とする棚。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、書籍や、C D、D V D等を陳列するための仕切体及び棚に関する。

【背景技術】

【0002】

スチール製の支柱と棚板とから構成され、棚板の上下方向の位置を調節可能なスチールラック又は軽量ラックと称される棚がある。このような棚において、書籍やC D等の被載置物を見栄えよく陳列できるものが求められていた。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特開 2 0 1 5－2 0 5 0 6 7 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

本発明は上記実情に鑑み、書籍やC D等の被載置物を見栄えよく陳列することのできる仕切体及び棚を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0005】

本発明のうち請求項 1 に記載の仕切体は、二つの側板と、背板とを備え、側板は、被載置物に当接する当接部と、棚の支柱に取り付けるための取付部を有し、背板は、左右に配置した側板間に架設してあることを特徴とする。

【0006】

本発明のうち請求項 2 に記載の棚は、請求項 1 に記載の仕切体を備えることを特徴とする。

【発明の効果】

【0007】

本発明によれば、左右に配置する二つの側板は、被載置物に当接する当接部と棚の支柱に取り付けられる取付部を有するので、棚板に陳列した被載置物が棚板の左右端部から落下することを防止する。また、左右の側板に架設される背板によって、被載置物の見付面が同一面上に揃うので見栄え良く陳列することができる。

【図面の簡単な説明】

【0008】

【図 1】第一実施形態の仕切体を示す平面図である。

【図 2】第一実施形態の棚の正面図である。

【図 3】棚板に被載置物を載せ、棚の内周側から見た側面図である。

【図 4】（a）は背板の正面図、（b）は第一実施形態の側板の斜視図である。

【図 5】第一実施形態の側板を棚に取り付け棚の内周側から見た側面図である。

【図 6】第一実施形態の仕切体に二つの背板を備えた際の要部の斜視図である。

【図 7】第一実施形態の側板の支柱への取付部分を示す平面図である。

【図 8】第二実施形態の仕切体を示す平面図である。

【図 9】第二実施形態の側板の斜視図である。

10

20

30

40

50

【図 10】第二実施形態の側板の支柱への取付部分を示す平面図である。

【図 11】(a)(b)は、側板及び背板の他の実施形態例を示す斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【0009】

以下、本発明の実施の形態を図面に基づいて説明する。なお、以下において、図 2 のように棚を正面視した際の左右を左右方向とし、奥行き方向を前後方向とする。また、図 1 のように棚を平面視した際に支柱 4 に囲まれた棚の内側の領域を内周側とする。

【0010】

本発明の仕切体 1 を取り付ける棚は、図 2 に示すように、スチール製の天板 2 と棚板 3 と支柱 4 から構成されるものであり、上下方向に複数の棚板 3 が配置される。支柱 4 は、図 1 における仮想線及び図 7 に示すように、断面形状が略 L 字状であり、四つの支柱 4, 4, 4, 4 は内角部分が棚板 3 の角部を覆うように配置してある。図 6 に示すように、支柱 4 には上下方向に複数の取付穴 4 a が設けてあり、天板 2 と棚板 3 は、支柱 4 の取付穴 4 a にネジ止めしてある。棚板 3 はいずれかの取付穴 4 a において支柱 4 にネジ止めすることができるため、被載置物の上下方向の寸法に合わせて棚板 3 の位置を調節可能である。取付穴 4 a は取り付ける部材によって異なる形状のものを設けてもよいが、例えば、同一形状の取付穴 4 a に棚板 3 及び仕切体 1 を取り付けてもよい。また棚は、図 3 における下段のように前後いずれか一方側を載置部とするものでもよく、図 3 における上段及び中段のように前後両側を載置部とするものでもよい。

【0011】

仕切体 1 は、棚板 3 の上部に位置し、棚板 3 の載置部を前後方向に仕切るためのものである。図 1 に示すように、仮想線で示す棚の支柱 4 に取り付けられる二つの側板 5 と、側板 5, 5 間に架設される背板 6 とからなり、材質は問わないが平板材により形成してある。

背板 6 は、左右に配置した側板 5, 5 に略垂直に架設され、棚板 3 の載置部を前後方向に仕切る。図 1 及び図 4 (a) に示すように、棚板 3 の左右方向の寸法よりもやや短い長さを有し、長手方向の両端部には鉤状の係合部 6 a が設けてある。係合部 6 a は図 6 に示すように、後述する側板 5 の被係合部 5 a に係脱自在である。背板 6 は、図 3 における下段及び中段のように一つ備えてもよく、図 3 における上段のように被載置物の寸法に合わせて前後に複数備えてもよい。

第一実施形態の仕切体 1 における側板 5 は、図 1 及び図 4 (b) に示すように、棚板 3 上の被載置物の側面に当接する当接部 5 1 と、棚の支柱 4 に取り付けるための取付部 5 2 とからなる平面視略コ字状の部材である。具体的には、当接部 5 1 は、棚の前後方向の寸法よりもやや短い長さを有し、長手方向に複数の被係合部 5 a が設けてある。被係合部 5 a の位置は、図 3 に示すように、大きさの異なる複数の被載置物の奥行き寸法に合わせてある。被係合部 5 a は当接部 5 1 の上部に切欠き状に形成されており、背板 6 の係合部 6 a を引っ掛けることができる。取付部 5 2 は、当接部 5 1 の長手方向両端部から略直角に折れ曲がり同一方向に延出しており、端部には支柱 4 の取付穴 4 a へ係脱自在な鉤状の取付片 5 b を備える。二つの側板 5, 5 は、図 5 乃至図 7 に示すように棚板 3 の上部において、長手方向を棚の前後方向と平行に、取付部 5 2 を棚の外周側へ向くよう左右に配置し、支柱 4 に設けた取付穴 4 a に取付片 5 b を引っ掛けて棚に取り付ける。

【0012】

ここで、図 7 に基づいて、支柱 4 に対する側板 5 の構成をより詳しく説明する。側板 5 の取付部 5 2 は、前後二つの支柱 4, 4 の見込面に設けた取付穴 4 a に棚の内周側から取り付けてある。取付部 5 2 は折れ曲がり部から取付片 5 b までの長さが、支柱 4 の見込面の左右方向の幅に略等しく形成されており、前後の支柱 4, 4 に側板 5 を取り付けて平面視すると、支柱 4 の内周側の見込面 4 s と側板 5 の当接部 5 1 の内周側見込面 5 1 s が略同一面上に位置する。

【0013】

このように構成した第一実施形態の仕切体 1 によれば、側板 5 は当接部 5 1 と取付部 5

2 とからなり、支柱 4 に取り付けられて左右に配置されるので、棚板 3 に載置した被載置物の側面が当接部 5 1 に当接し、被載置物が棚板 3 の左右端部から落下することを防止する。

背板 6 は、左右の側板 5、5 間に架設されるため、棚板 3 に載置した被載置物の背面が背板 6 に当接し、棚の前方に載置した被載置物が後方から落下することを防止する。

また側板 5 には、背板 6 を架設するための被係合部 5 a が長手方向に複数設けてあり、背板 6 は側板 5 の被係合部 5 a に係脱自在である。背板 6 の取り付け位置は、載置する被載置物の奥行寸法に合わせて前後に調節可能であるため、同じ寸法の被載置物を棚板 3 に陳列させた際に、被載置物の見付面が同一面上に揃うので見栄えが良い。棚板 3 毎に異なる寸法の被載置物を陳列させた場合も、全ての被載置物の見付面を略同一面上に揃えることが可能である。

10

仕切体 1 が複数の背板 6 を備える場合、例えば、側板 5、5 間に前後二つの背板 6 を取り付けた場合は、被載置物の寸法に合わせて載置部を前後方向に仕切ること、棚の前後両側を載置部として用いることができる。この場合も、棚の前後両側において被載置物の見付面を同一面上に揃えることができるので見栄えが良い。

さらに、支柱 4 の内周側見込面 4 s と、側板 5 の当接部 5 1 の内周側見込面 5 1 s が略同一面上に位置するため、棚板 3 に陳列した被載置物が支柱 4 の見付面に隠れることがなく、例えば書籍の背表紙が支柱 4 に隠れることがないので実用性に優れる。

【0014】

続いて、図 8 乃至図 10 に基づき、第二実施形態の仕切体 1 1 と棚について説明する。第一実施形態とは、棚板 1 3 に対する背板 1 6 の寸法と、棚の支柱 1 4 及び側板 1 5 の形状が異なるが、その他の構成は同じである。

20

背板 1 6 は、棚板 1 3 の左右方向の寸法と略同じ長さを有する。

支柱 1 4 は、断面形状が略コ字状であり前後の支柱 1 4、1 4 は開口部が対向するように配置してあり、棚板 1 3 と側板 1 5 は、支柱 1 4 の内周側見込面 1 4 s に取り付けられる。

側板 1 5 は、第一実施形態と同様に棚板 1 3 上の被載置物の側面に当接する当接部 1 5 1 と、支柱 1 4 に取り付けするための取付部 1 5 2 とからなる平面視略コ字状の部材であり、当接部 1 5 1 は、棚の前後方向の寸法よりもやや短い長さを有し、長手方向に複数の被係合部 1 5 a が設けてある。当接部 1 5 1 の長手方向両端部には略直角に折れ曲がり同一方向に延出する取付部 1 5 2 が設けてあるが、取付部 1 5 2 は第一実施形態の側板 5 の取付部 5 2 のような折れ曲がり部から取付片 5 b までの左右方向の長さを殆ど有することなく、折れ曲がり部を含め取付部 1 5 2 自体が鉤状の取付片となっている。従って、図 10 に示すように、前後の支柱 1 4、1 4 に側板 1 5 を取り付け平面視すると、支柱 1 4 の内周側見込面 1 4 s と、側板 1 5 の当接部 1 5 1 の内周側見込面 1 5 1 s が略同一面上に位置する。

30

【0015】

このように構成した第二実施形態の仕切体 1 1 によれば、背板 1 6 は棚板 1 3 の左右方向に亘っており、支柱 1 4 の内周側見込面 1 4 s と、側板 1 5 の当接部 1 5 1 の内周側見込面 1 5 1 s が略同一面上に位置するため、棚板 1 3 上の載置部を広く確保することができ、その他第一実施形態と同様、被載置物の落下防止や、異なる寸法の被載置物を見栄えよく陳列できるという作用効果を奏する。

40

【0016】

本発明は、上記の実施形態に限定されない。仕切体の材質は特に限定されるものではなく、例えばアルミニウム製、ステンレス製、スチール製、アクリル樹脂製や木製等、様々な材質のものをを用いることができる。そして、第一実施形態及び第二実施形態に示す平板材に限られず、例えば図 11 (a) に示すような丸棒や丸パイプ状の線材や、図 11 (b) に示すような角パイプ材や角鋼材から形成されるものであってもよい。背板の係合部と側板の被係合部の構成は、特に限定されない。側板の取付部は、支柱に取り付け可能なものであればよく、支柱の取付穴にネジ止めするものであってもよい。棚の支柱の断面形状

50

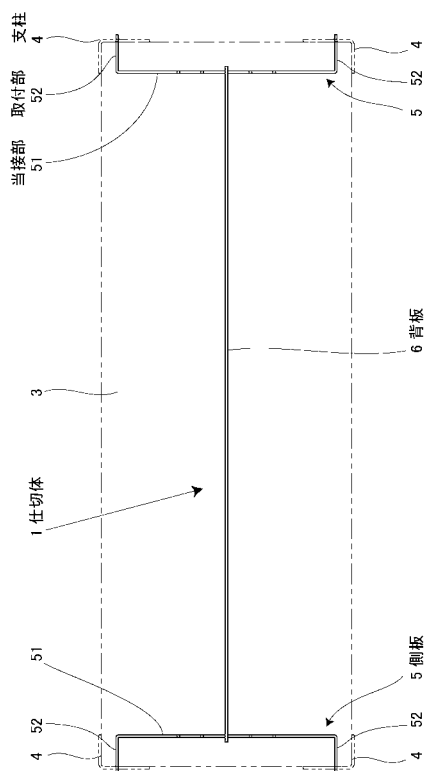
はL字状や略コ字状に限られず、円形や矩形であってもよい。また、複数の棚を左右方向に連結させてもよい。

【符号の説明】

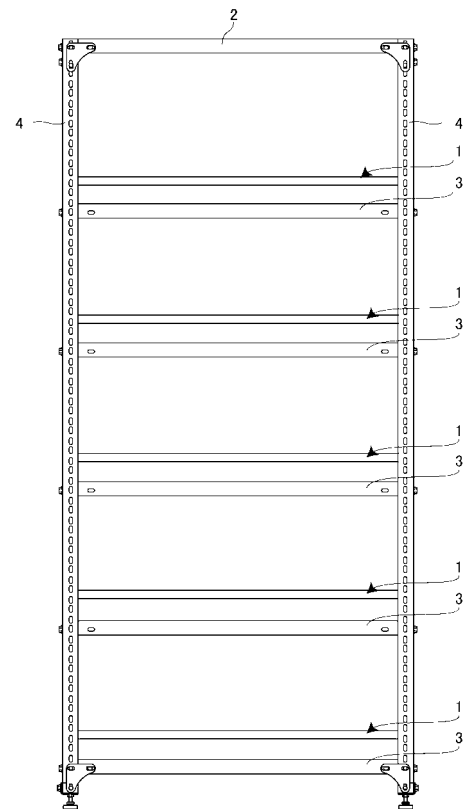
【0017】

1, 1 1	仕切体
4, 1 4	支柱
5, 1 5	側板
6, 1 6	背板
5 1, 1 5 1	当接部
5 2, 1 5 2	取付部

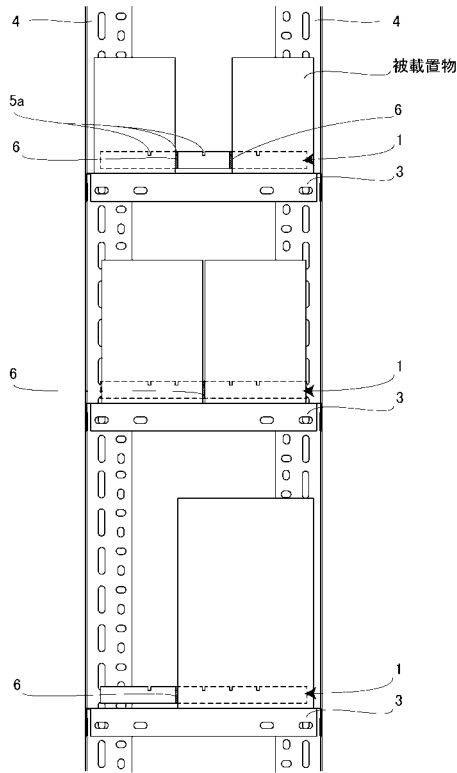
【図1】



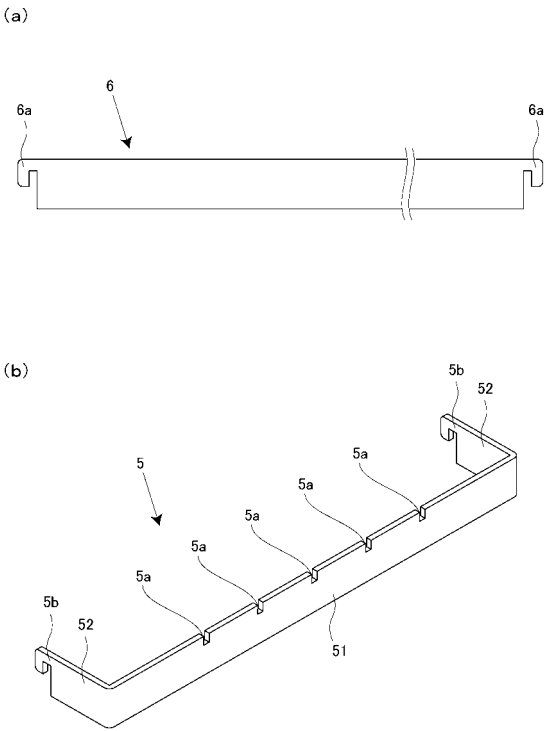
【図2】



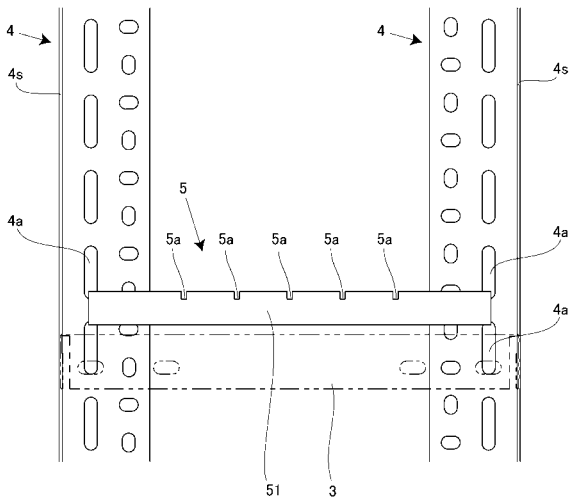
【図 3】



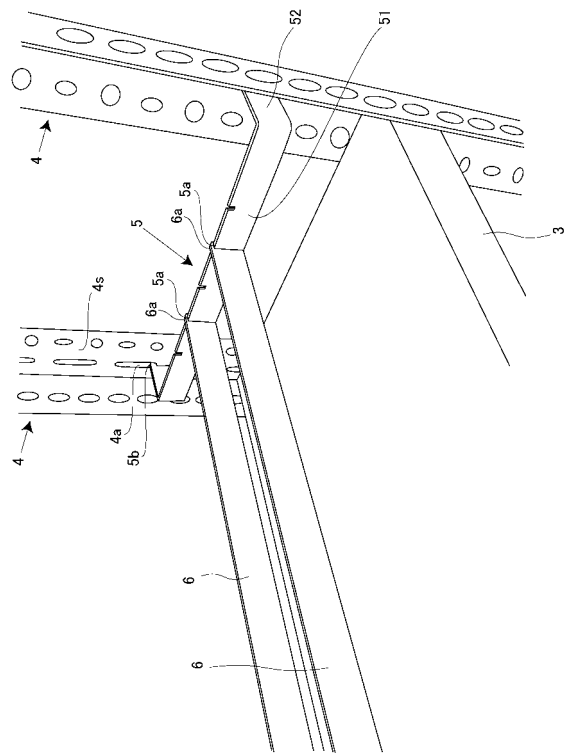
【図 4】



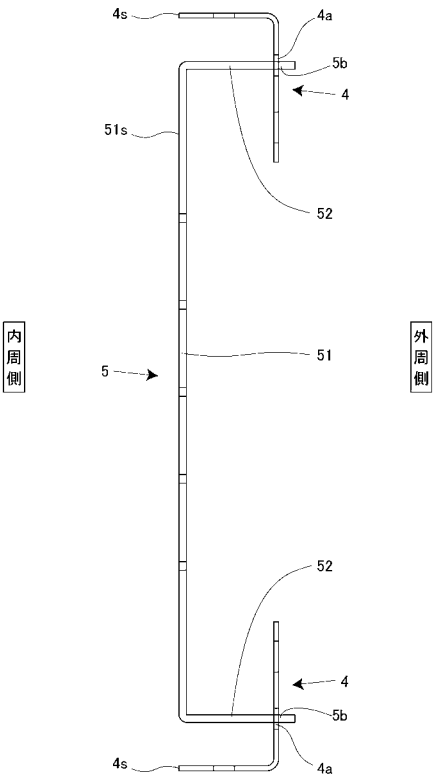
【図 5】



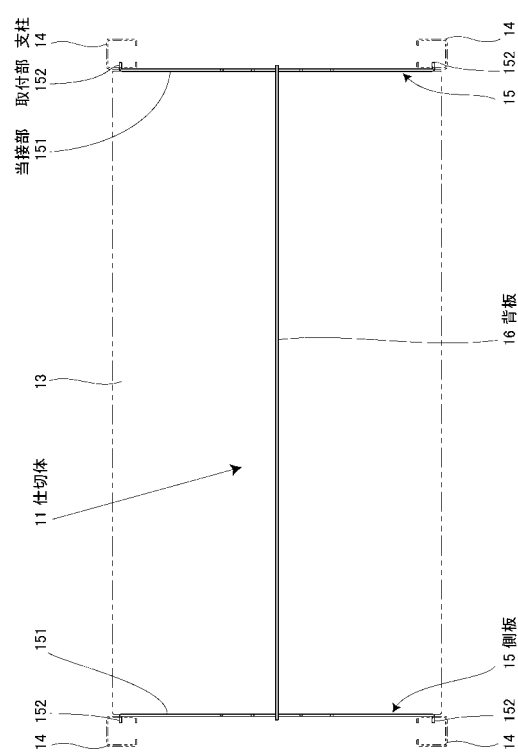
【図 6】



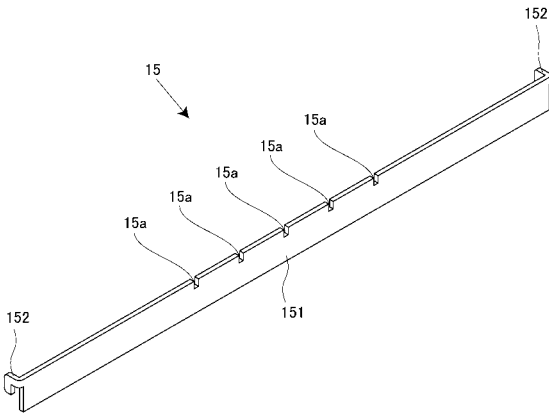
【図 7】



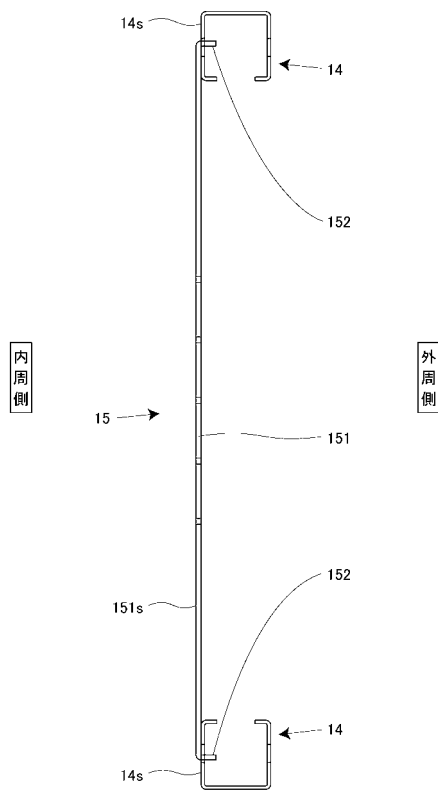
【図 8】



【図 9】



【図 10】



【図 1 1】

